

和6年度 環境活動以前一人



作成日令和 7年 1月 6日 運用期間令和6年1月~令和6年12月

Eal 21matsuzawa



目 次

		ページ
1	事業活動の概要	1~2
2	環境方針	3
3	環境目標とその実績	4
4	環境活動計画と取組結果、及びその評価	5
5	次年度の取組内容	6
6	環境関連法規への違反、訴訟等の有無	7
7	代表者のコメント・全体の評価と見直し	8

1 事業活動の概要

2024年度

1) 事業所名及び代表者氏名

本社

資材置場

延岡営業所

株式会社 松澤 組

代表取締役 松澤 芙美

2) 所在地

〒889-0614 宮崎県東臼杵郡門川町上町4丁目33番地 〒889-0616 宮崎県東臼杵郡門川町南町6丁目4番 〒882-0877 宮崎県延岡市片田町2930番地20

宮崎営業所 〒880-0926 宮崎県宮崎市月見ヶ丘2丁目7番2号 都城営業所 〒885-1105 宮崎県都城市丸谷町1701番地2

連絡先 TEL: 0982-63-3300 FAX: 0982-63-1262

3) 環境管理責任者 川崎 重人 shigeto,kawasaki@matsuzawagumi.co.jp

• 土木部責任者 加門 和典 担当者 赤澤 早都

• 法面部責任者 長友 勝美 担当者 安田 和之

• 総務部責任者 坂本 教昭 担当者 宮崎 志穂

4) 事業活動の内容 (対象範囲)

土木工事業 水道施設工事業

とび・土工工事業管工事業舗装工事業解体工事業

5) 事業の規模

資 本 金 3,600万円

工事件数 11件

従業員数 30名

総敷地面積 8079.0m 本社+資材置場 (992+7087)

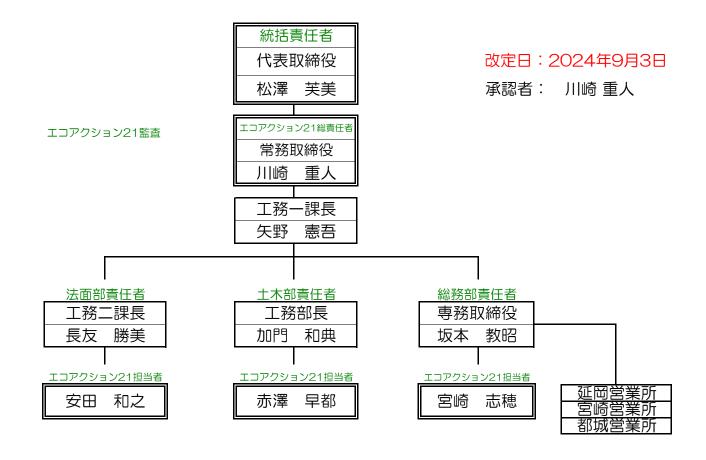
床 面 積 462.4m²

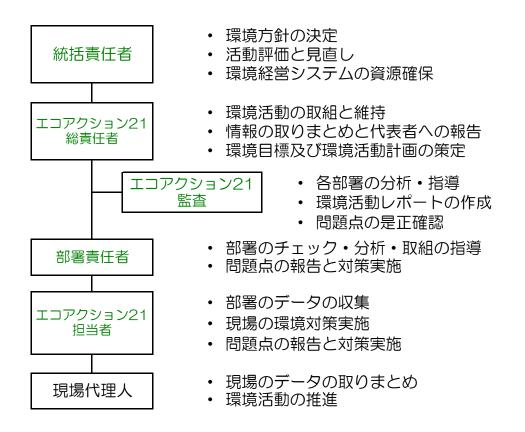
資材置場 937.6㎡ 本社+資材置場(295.3+642.3)

6) 設立 昭和25年3月

7) 認証・登録範囲

全社 全組織 全活動





2.環境方針

【基本理念】

株式会社松澤組は、事業活動による社会環境・自然環境の影響を把握し、 地球に優しい環境改善・継続的改善を図り、社会への貢献を目指し社員一同 取り組みます。

【環境方針】

環境目標を設定し、地域密着型の地球温暖化対策に努め、また資源の有効利用を促進し リサイクル活動を行い 環境方針を以下の計画で実施する。

- 1) 目標を設定し、その達成を目指すとともに必要な見直しを行い継続的な改善を実施する。
 - 共通) 廃棄物の選別を行い、リサイクル活動を促進させる 使用エネルギーの削減(特に電気・ガソリン) 資源の効率的使用の推進 事務用品のグリーン購入の推進 月1回の環境勉強会の開催
 - 現場) 現場の、再生資源の促進・提案を行なう 自然水・雨水等の有効利用を促進する 省エネ・省資源型の建設機械の使用 使用資材のグリーン購入の推進 VE提案を1件以上提案する
- 2) 環境関連法令を遵守する。
- 3) 環境目標を設けて環境管理レベルの向上を図る。
- 4) 地域社会における環境ボランティア活動に積極的に参加し、社会貢献活動を推進します。
- 5) 各現場に環境教育を全従業員に行い、環境方針を周知徹底し環境改善の意識を高揚させる。

制 定 日 2008年8月29日 株式会社 松 澤 組 改 訂 日 2015年1月13日 代表取締役 松澤 芙美

3.環境目標とその実績

2024年度の目標とその実績、及び以降2年間の中期目標は下記のとおりである。

組取目標		単位	管理	基準値	2024 年度		達成率	2024 年度	2025 年度	2026 年度
				過去10年間 実績 (2020年 見直し)	目標(-2.0%)	実績	100% 以上を目 標とする	目標(-2.0%)	目標(-2.5%)	目標(-3.0%)
			本社	19,158	18,775	13,087	143%	18,775	18,679	18,583
	消費電力量 の削減	kwh	現場	17,152	16,809	20,933	80%	16,809	16,723	16,637
	- 155#71		全体	36,310	35,584	34,020	105%	35,584	35,402	35,221
			本社	2,114	2,072	2,593	80%	2,072	2,061	2,051
_	ガソリン 消費量の削減	Q	現場	20,320	19,914	23,828	84%	19,914	19,812	19,710
酸酸			全体	22,434	21,985	26,421	83%	21,985	21,873	21,761
化	±2\4		本社	0	0	0	_	0	0	0
化炭素排出	軽油 消費量の削減	Q	現場	27,932	27,373	31,243	88%	27,373	27,234	27,094
系排	737(1133#74		全体	27,932	27,373	31,243	88%	27,373	27,234	27,094
出	.1.7.		本社	278	272	357	76%	272	271	270
量削	灯油 消費量の削減	Q	現場	234	229	350	66%	229	228	227
削減	// 只里♥フトラッ//%		全体	512	502	707	71%	502	499	497
11/24		_減 kg	本社	8.80	8.62	1.80	479%	8.62	8.58	8.54
	ガス 消費量の削減		現場	0.00	0.00	0.00	_	0.00	0.00	0.00
	万貞皇♡別場		全体	8.80	8.62	1.80	479%	8.62	8.58	8.54
		kg	本社	12,271	12,026	11,451.8	105%	12,026	11,964	11,903
	総量	量 -	現場	125,742	123,227	144,024	86%	123,227	122,598	121,970
CO ₂		CO2	全体	138,013	135,253	155,475	87%	135,253	134,563	133,873
	//\c\ \\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		本社	0.530	0.519	0.30	175%	0.519	0.517	0.514
坩	総廃棄物 H出量の削減	t	現場	770.300	754.894	1,013.8	74%	754.894	751.043	747.191
19	F山重(2)F1//9(全体	770.830	755.413	1,014.1	74%	755.413	751.559	747.705
			本社	264	259	214	121%	259	258	257
総排水量の削減		t m³	現場	14	14	5	274%	14	14	14
			全体	278	273	219	125%	273	272	271
グリーン購入			本社	5	5	5	100%	5	5	5
		8	現場	8	8	8	100%	8	8	8
			全体	13	13	13	100%	13	13	13
	らが施工する		全体	_			100%	環境活動計画の遵守		
製品	・サービス		現場				100%	(環境保	全活動のへ	の取組)

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力0.347(2020年度)を使用。

		単位発熱量	排出係数
電気			0.347
ガ ソリン	0.0671	34.6	2.32
軽油	0.0687	38.2	2.58
灯油	0.0598	36.7	2.49
LPG	0.0598	50.2	3,00

 作成
 :
 令和
 7年
 1月
 10日
 矢野
 憲吾

 承認
 :
 令和
 7年
 1月
 10日
 松澤
 芙美

4.環境活動計画と取組結果、及びその評価

承認日:令和6年12月26日 承認者:川崎 重人 作成日:令和6年1月17日 作成者:矢野 憲吾 評価 共 诵 (本社・現場) 取組結果 電力使用量の削減 ①昼休憩時の消灯を確認(毎日) O 1 事務所、現場事務所での使用時以外の照明を消灯 ②パソコンの電源を確認 ③節電タップの使用を確認 2 O 不在のときはパソコンの電源オフ ④設定温度の表示および設定温度を確認 (3) \bigcirc 節電タップを使用し確実な電源オフ ⑥照明LED化80% 0 4 エアコン設定温度の適正化 (5) 太陽光を利用した発電システムの導入検討 O 6 少燃費ライトへの交換 現 場 ①担当業者の引き取りを確認 1 O 使用済みのトナーカートリッジをリサイクルする。 ②社内環境パトロール時に現場で確認 2 0 不必要な電源を切る。 ③設定温度の表示や設定温度を確認 (3) 0 節電や設定温度の表示をする。 化石燃料の削減 ①実施状況を確認 (1) アイドリングストップの励行 O 2継続改善 Δ 自社の車両を低燃費車に変更する(車検ごと検討) ③車両運行点検簿にて確認 ④実施状況を確認 3 車両整備を定期的に行なう(空気圧、各部オイル) Δ ⑤実施状況を確認 (4) $\overline{\bigcirc}$ 近場への移動には自転車・バイクを使用 (5) 0 低燃費タイヤの励行 現 場 (1) 通勤車両の乗り合わせ計画を実行している Δ ①各現場毎に検討する 2 ②・③災害関連工事の増加に伴いリース機器の在庫が少な エネルギー消費効率の高い機器の導入リース等 Δ い状況である。 Δ リース機械はなるべく年式の新しい物を使用する 廃棄物の削減 ①実施状況を確認 (1) Ο ゴミの分別をして再資源化を図る ②LINE·Timetree·i-padの活用 2 0 用紙類使用(購入)量の削減 ペーパーレスな取組の実施 事務機器等一般事務用品等の購入時における環境負荷の ③詰め替え商品等の利用 0 (3) 削減 ④実施状況を確認 4 O エコマーク商品を優先的に購入するように検討する ⑤実施状況を確認 ⑥データサーバーの活用 (5) O ミスプリント用紙の再利用 ⑦業者へ返却している 6 \bigcirc 社内LANの利用によりペーパーレスの取り組み $\overline{7}$ 使用済みのトナーカートリッジをリサイクルする \cap 現 場 1 Δ 現場発生のゴミを分別し再生促進する ①簡易的なゴミ分別施設の設置 2 測量杭等は現場発生木材を利用する Δ ②条件により出来ない現場もある ③施工方法等に左右される (3) Δ 再生資材の利用できる工法を検討する ④施工計画時に資材業者と打ち合わせを行う 4 Δ 搬入資材等の包装を最小限に限らせる ⑤実施状況を確認 詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、製品 0 の長期使用を進めている 4)水使用量の削減 ①実施状況を確認 (1) 不必要な水の使用をしない О ②実施状況を確認 2 洗車は必要最小限に留め、洗車時には節水を励行している Ο ③閉栓の確認をする (3) ホースの先にストッパーを付け使用する Δ 現 場 ①実施状況を確認 0 雨水利用施設の設置をし、現場では雨水を利用するように検討する ②現場条件により散水車による散水等で対応しないと間 に合わない Δ 現場でのコンクリート養生は、谷の水を利用するようにする ③実施状況を確認 0 3 仮設トイレの水は雨水を集水し、利用するようにする 環境保全活動への取組 **1** ①施工前検討会や工程会議時に実施 $\overline{\mathsf{O}}$ (1) 教育訓練の実施 ②道守活動やボランティア活動の参加 2 O 環境保全活動への参加 ③現場状況や工法による 3 ④実施状況を確認 環境に配慮した工法、資材等の提案 Δ ⑤各研修会に参加している 4 О グリーン購入の推進 (5) 環境に関する研究・講習への参加 O 現 場 (1) O 使用資材のグリーン購入 ①~③実施状況を確認 建設機械に伴う周辺環境への保護対策(防塵等) Δ 工事用道路使用時の周辺環境への保護対策(防塵等)

5.次年度の取組内容

	取の方口と活動中容		" 価	+0 小	
	取組項目と活動内容		7-9月 10-12月	担当	
1)	電力使用量の削減		1		
(1)	事務所、現場事務所での使用時以外の照明を消灯				
2	本在のときはパソコンの電源オフ			宮崎	
3	作品のときはパグコンの電源オン 節電タップを使用し確実な電源オフ			μы	
4	エアコン設定温度の適正化			志	
<u> </u>	太陽光を利用した発電システムの導入検討	-		穂	
6	AMDに発電リステムの導入検討 LEDライトへの交換	-		-	
0	各現場			担当	
(1)	使用済みのトナーカートリッジをリサイクルする	_		ᄪᆿ	
2	不必要な電源を切る	-		代理	
3	節電や設定温度の表示をする。			人	
-					
<u>2)</u>	化石燃料の削減			-	
1	アイドリングストップの励行			宮崎	
2	自社の車両を低燃費車に変更する(車検ごと検討)			,	
3	車両整備を定期的に行なう(空気圧、各部オイル)			志	
4	近場への移動には自転車・バイクを使用			穂	
5	低燃費タイヤの励行 オール			<u> </u>	
	各現場			担当	
1	通勤車両の乗り合わせ計画を実行している			各代	
2	エネルギー消費効率の高い機器の導入リース等			理	
3	リース機械はなるべく年式の新しい物を使用する			人	
(3)	廃棄物の削減				
(1)	ゴミの分別をして再資源化を図る				
2	用紙類使用(購入)量の削減			宮	
3	事務機器等一般事務用品等の購入時における環境負荷の削減			崎	
4	エコマーク商品を優先的に購入するように検討する			志	
5	ミスプリント用紙の再利用			穂	
6	社内LANの利用によりペーパーレスの取り組み			-	
7	使用済みのトナーカートリッジをリサイクルする				
	各現場			担当	
(1)	現場発生のゴミを分別し再生促進する				
2	測量杭等は現場発生木材を利用する			A	
	再生資材の利用できる工法を検討する			各代	
4	搬入資材等の包装を最小限に限らせる			理	
	詰め替え可能な製品の利用や備品の修理等により、			人	
5	製品の長期使用を進めている			I	
1	水使用量の削減			中	
4)				宮崎	
1	不必要な水の使用をしない			1	
2	洗車は必要最小限に留め、洗車時には節水を励行している			志穂	
3	ホースの先にストッパーを付け使用する				
	各現場			担当	
1	雨水利用施設の設置をし、現場では雨水を利用するように検討する			各代	
2	現場でのコンクリート養生は、谷の水を利用するようにする			理	
3	仮設トイレの水は雨水を集水し、利用するようにする			人	
5)	環境保全活動への取組				
1	教育訓練の実施			宮は	
2	環境保全活動への参加			崎	
3	環境に配慮した工法、資材等の提案			志	
4	グリーン購入の推進			穂	
(5)	環境に関する研究・講習への参加			1	
<u> </u>	各現場		I	担当	
	- 70 %			<u>. – – </u>	
<u>(1)</u>	- 使用資材のグリーン購 λ			夂	
1 2	使用資材のグリーン購入 建設機械に伴う周辺環境への保護対策(防塵等)			各代理	

6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

11日の夕称	数坐する活動内容	遵守状況記録日			
法規の名称	該当する活動内容	3月	5月	9月	11月
	• 産業廃棄物処理業者と委託契約の締結	遵守	遵守	遵守	遵守
	・マニフェスト管理(交付)	遵守	遵守	遵守	遵守
廃棄物処理法	・ 産業廃業物官理票父付寺状况報告 ・ 産業廃棄物処理計画書・実施状況報告書 (前年度に産業廃棄物を年間1,000トン以上排出 する事業所を有した場合、6月30日までに知事へ報 告)	遵守	遵守	遵守	遵守
	• 産業廃棄物保管場所の掲示物表示	遵守	遵守	遵守	遵守
	• 分別解体等の計画等を書面にて説明、完了報告	遵守	遵守	遵守	遵守
建設リサイクル法	・自主施工者の場合、7日前までに必要事項を県知事に届出	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	・ 分別解体の励行、再資源化の促進、再生資源の利用	遵守	遵守	遵守	遵守
再生資源の利用に関す	・再生資源利用計画書(実施書)の作成	遵守	遵守	遵守	遵守
る省令	・再生資源利用促進計画書(実施書)の作成	遵守	遵守	遵守	遵守
	・第一種特定製品の簡易・定期点検の実施とその記録	遵守	遵守	遵守	遵守
フロン排出抑制法	• 廃棄時の回収依頼書交付及び取引証明受・保存	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
	• 解体工事着手前に第一種特定製品の有無の確認	該当なし	該当なし	遵守	該当なし
大気汚染防止法	・解体工事着手前に特定工事の確認と調査結果の報告(石綿、フロン類等)	該当なし	該当なし	遵守	該当なし
騒音規制法	・該当する工事は7日前までに知事へ届出 ・規制値の遵守(作業敷地境界にて85dB以下)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
振動規制法	・該当する工事は7日前までに知事へ届出 ・規制値の遵守(作業敷地境界にて75dB以下)	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
水質汚濁防止法	・公共用水域へ排水する施設を設置する時は 知事に届け出 ・排水基準の遵守	遵守	遵守	遵守	遵守
水道法	・水道技術管理者の選任・布設工事の監督者の配置	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
浄化槽法	・定期点検・定期清掃・法定検査の実施	遵守	遵守	遵守	遵守
道路交通法	過積載の防止法定速度の遵守	遵守	遵守	遵守	遵守
火薬類取締法	・該当する工事の届出 ・消費技術基準の確認と遵守	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
排出ガス対策型建設機 械普及促進規定	・指定機械の使用促進 ・排出ガス対策型であることの確認	遵守	遵守	遵守	遵守
オフロード法	ブルドーザ、クローラクレーン、くい打ち機、タワークレーン、ドリルジャンボなどを使用する場合は適合証明 を確認する	遵守	遵守	遵守	遵守
宮崎県・市町村環境基本条例	汚水・廃棄物等の処理その他の公害の防止	遵守	遵守	遵守	遵守

その結果 法規の違反・訴訟はありませんでした。 また関係機関からの指摘、利害関係からの訴訟もありませんでした。

7.代表者による全体評価と見直しの結果

実施日	令和6年12月27日 8:30 ~ 9:30	場所本社事務所			
参加者	松澤 芙美・坂本 教昭・川崎 重人				
	全体評価と指示内容	前回指示に対する取組結果			
環境方針	環境方針は当社事業活動に合致している。	- 環境方針は当社事業活動において適切であり			
改定の必要性	なし	今後とも同方針とする。			
①数値目標 の 達成状況	受注工事規模や工事条件また、台風等の自然災害の影響が数値として表れている。	達成率(全体) 今年 昨年 電力量 105% ←114% ガソリン使用量 83% ←74% 軽油使用量 88% ←113% 灯油使用量 71% ←73% ガス使用量 479% ←578%			
改定の必要性	なし	CO2排出総量 87% ←94% 水使用量 125% ←98%			
②環境活動計 画の実施及び 活動結果	電子メールやSNS、ZOOMによるリモート会議、現場従事者におけるi-padの活用など社内での環境意識が定着してきており良い傾向であると思われる。	照明のLED交換率が約80% 作業所でのゴミ分別処理の効率化 SNS等の活用により不要な用紙等の削減			
改定の必要性	なし				
③環境関連 法規等の遵 守状況	盛土規制法について宮崎県は令和7年度に規制区域指定を予定しており実質的な運用はそれ以降になる見込みである。	今年度に関係法令の見直しを実施 環境法令は遵守されている。			
④外部から の環境に関 する苦情や 要望等	顧客において働き方改革が進み、書類の簡素 化、作業の効率化は上がってきている。引き続 き、施工前検討会を有意義に活用していきた い。	施工前検討会や工程会議等で顧客からの要望等(検査時の指導事項等)を共有し、それを施工計画等に活用している。			
⑤実施体制 について	途中一部組織図を変更。	従業員の異動による変更あり			
⑥その他・環境経営システムについて	人手不足による社員一人一人の負担を軽減す るための労働環境改善を引き続き行う。	コロナ禍に導入した社内会議のzoom利用継続 にCCUS、クラウドシステムの共有利用拡大 低燃費対策重機のバックホウの導入			
改定の必要性	なし	現場計測器(光波)の追加			

全体評価

昨今の異常気象による当事業への影響は大きく、特に短期間降水量の増加や熱中症においては想定を超えて事業活動に大きなダメージがありました。社員一人一人のコストの削減や環境に関する意識は向上してきているが、負担が増幅しないように労働環境の改善を図りながら人手不足解消の一因にもなるよう、引き続き労働生産性を向上させる取り組みに重点を置いていきたい。